



広報

こしがや

1月1日

昭和47年(1972) No. 415

編集

越谷市役所企画部広報課



あけまして おめでとうございます

1972年元旦



生活に憩いのある環境を整備

越谷市長 島村平市郎

新年おめでとうございます。年頭にあたり私の所信と決意を述べ心を新たにしたいと思います。首都近郊にある越谷市は、十五万都市として発展を遂げましたが一方においては、この急激な膨張が都市のスプロール化、市民生活基盤を築く公共投資の遅れなどが現われて来ております。そのため、市民の皆さんが将来において、自然環境に恵まれた豊かな生活がおくれるような、住み良い健全な都市の建設を進めて行かなければなりません。

それには、歴史的な越谷市の自然を生かして、緑地の保全をはかり、公害を防止して生活に憩いのある環境を整備してゆきたいと思っております。

また安定した生活環境を整えるために、市立病院の建設には、献身的な努力を傾注して、実現に努力をいたしております。

そのほか、教育施設、上下水道、区画整理、道路、街路の整備などを図るとともに、都市近郊農業の開発、工場集約化などをおしすすめ、越谷市の自然を生かした、健全で豊かな市民生活ができるような都市づくりをしなければなりません。

もちろん財政需要は必然的に膨大なものとなりますが、これには昭和六十年を目標とした長期総合計画に基づき、基本構想を樹立し、行政の効果的な運用を図って参りたいと存じます。

さらに発展、激動期にある市政の円滑なる運営を図るために、広く市民皆さんの声を求め、市民の立場になって、重要度、緊急度等を十分把握し、民主的な市政の運営にあたる覚悟です。

新しい年を迎え、所信の一端を申し上げ、年頭のごあいさつとし、あわせて皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



市政の難問解決に努力

越谷市議会議長 平野惣之助

市民のみなさん、あけましておめでとうございます。ここに一九七二年の新春を迎えるにあたり、市議会を代表して心からみなさんのご清福とご繁栄をお祈りいたします。

わたくしは昨年四月の統一地方選挙後、議長として微力ながら円滑な議会運営と市政の伸展を期して誠意努力してまいりました。おかげをもちまして大過なく越年することができました。これはひとえにみなさまのご支援とご協力の賜と深く感謝の意を表する次第でございます。

しかしながら、今後幾多の重要問題が山積している中で、人口の急激な増加が当市の都市機能を低下させる要因ともなることに思いを寄せるとき、いちがいには喜んでばかりはいられません。

特に市立病院の建設、義務教育施設の整備拡充、市道の舗装整備、公共下水道、水資源の確保、市営火葬場建設など、いずれも市民生活の安定、福祉の増進を図る重要な問題であります。

顧みますと、当越谷市も誕生してから十四年目を迎えるわけでありますが、この間、市執行機関はもとより、当市議会においてもその議権の伸張と市民の福祉増進を目的とし歩んでまいりました。

昨今人口も十五万五千人を数えるに至り、田園都市から首都近郊の一大都市として発展しつつありますことは、みなさんの絶大なるご協力と市行政運営のよろしきを得た結果であると信じます。

幸い市立病院建設については、先般建設委員もきまり一日も早い開院を目的に本格的なスタートを切ったわけでありますが、以上申し上げた問題の解決を図ることは、市民を代表するわれわれに課せられた責務であり、国や県の施策と相まって、市政の範囲内で最大の効果があがるよう努力する決意であります。

なにとぞ本年は越谷市にとって、そしてみなさんのご家庭にとって最良の年になりますよう倍川のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。ごあいさつといたします。

表紙の写真

躍動する十三歳

増大する東京大都市圏の物流流通需要に対処するために、武蔵野線が建設され、またここに南越谷駅が新設される。

それとともに南越谷駅は定期急行便の発着基地をもつ、首都圏内の拠点駅となり、大量・迅速輸送はもとより貨物情報処理システムが確立し、物流流通活動に大きな変革をもたらすべく、一大近代的流通業務市街地が建設される。

市制施行後、十三年を経過したわが越谷市、市を横断する武蔵野線の鉄路にこだます響きとともに、躍動する十三歳の少年少女たち。たくす市勢発展への夢は限りない。

(写真は南越谷駅付近の工事現場で、十三歳の少年少女)

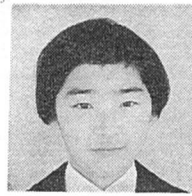
作文特集

越谷をこんなまちにしたい

昭和四十七年の新春を迎え、広報こしがやでは、作文の特集をお送りします。「越谷をこんなまちにしたい」のテーマで、市内の小中学生、一般市民の方々に書いていただきました。皆さんの作文には越谷にある数々の現実の問題点を鋭くとらえているいろいろな立場、いろいろな角度から「越谷」への願い、希望などが述べられています。(掲載順不同)

住みよい

文化都市に



春田真澄さん 南越谷小6年

越谷という町、今は人口も十五万を超え、埼玉県下でも十位以内にはいるという都市である。この越谷も十年ほど前は、小さな農村だった。だから考えてみれば、越谷もずいぶん発展したものである。越谷は「東京のベッドタウン」ともいわれている。そのためか、ほとんどの人が、東京の方から、移住してきた人だ。だから市民の私たちも越谷という町が、それほど印象深くない。こんな町を一つの立派な都市に育てるには、どうしたらよいか。

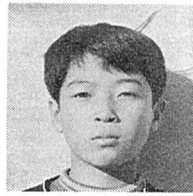
一つは、産業都市にすることが考えられる。しかし「東京のベッドタウン」といわれている越谷に新しい産業をおこすことは、とうてい無理だろう。

もう一つ考えられることは、文化都市にすることである。今の越谷には、体育館も、図書館も、りっぱなものがあるが、ほんの一部の人しか利用できない。わたしの家から行って、よほどの決意がなくては、行く気になれない。図書館までは、遠いし、交通状態も悪い。行くのにはとても危険だ。また公園や遊び場が少ないことも、問題である。そのため交通事故もすく多いということだ。これで住みよい町、文化都市といえるだろうか。それには、体育館、図書館、公園などをもっとふやし、だれにでも利用できるようにしたらよいと思う。

越谷には、まだ自然が残っている。田んぼや川も、季節ごとに美しい。しかしこの美しい自然も、いずれは公害などで、どんどんこわされてしまうだろう。しらすぎの姿も、だんだん見かけることが少なくなった。できるだけ、公害をなくし、残された自然を守りつづけたいものである。これは私たちの努力によって生まれてくるものかも知れない。

私たちの町、越谷は、これから

公害のない町に



恩田準さん 蒲生第2小6年

人口もどんどんふえていくだろう。そんなとき、この多くの人が越谷という町を理解し、住みよい町にしようと努力したら、どんなにすばらしいことかれない。私たちが、おとなになって「越谷」と胸をはっていえるような、そんな町にしたいものである。

どんなに越谷が発展しても、どんなに越谷の交通機関がよくなっても、公害というおそろしい言葉を忘れてはいけない。

今ぼくの住んでいる蒲生は、けして住みにくい町ではない。が市の中心部に一歩足をふみ入れるとすごい車だ。パイパスの出入り口などは人の話がわからないことがある。学校のけい示板にはあってあった「日本公害地図」を見ておどろいた。川口、大宮などが書いて

ないのが不思議だ。工場のはい液、ゴミのすて場所、自動車のそら音、越谷市の敵である。おじいちゃんに聞いた話では、越谷市と草加市の境のあやせ川は、今でこそきれいなが、い前は魚もとれず、泳げたそう。

公害のない町にするには、いったいどうしたらよさうか。はじめの工場の廃液の問題だが、これは、今テレビでせんでんしている「はい液をきれいにする機械」を使用すればよい。そうすれば、この問題は解決するはずだ。

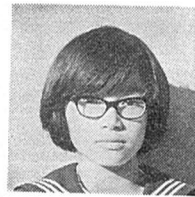
次にゴミの問題だが、これは、広報こしがやに「もえないゴミの集める日」がのっていた。だから家庭の一軒一軒の人々の協力が必須だ。それからテレビでこの町だか、一軒一軒に「簡易焼却炉」という便利な物を作ってくばったそう。使用した人は、大変良いと言っていた。しかもその考えはすばらしいと思う。

最後に車のそら音の問題だが、これは人口が増すにつれて比例するように思われる。だがそれを忘るれさせようとすものがある。それは緑ではないだろうか。エメラルドの葉が少しでも市民の心をやわらげて、また自分も町を美しくしようという心がわいてくるのではないのだろうか。

ぼくたちは先生方に、毎年、緑化運動のポスターを書かされる。一つ思い切って、一軒一本づつ木を植えたらどうだろうか。町は少しでもきれいになるのではないだろうか。そして越谷市は、日本公

美しい町

安全な町



河井裕子さん 南中2年

害地図に二度とほらないようにして、反対に「緑の町」「住みよい町」として、地図にのるようにしたいものだ。

越谷をどんな町にするか……。考えてもすぐには、浮かんできませんが、次の二つに重点をおいてみたいと思います。ひとつは、美しい町にしたいということです。もう一つは、安全な町にしたいということです。

美しい町にしたいということは緑のまちにするということです。町の中を歩いていても、あまり街路樹がありませんし、市民のための公園もそれほどありません。公園というのは、なにも遊び場というのではなく、大きくても小さくてもいいから美しい花壇があって小さいふん水があって、回りには木が、そして芝生があって、ベンチがある。思っただけでもわくわくしてくるような感じがします。そんなことがすぐ実現するということは不可能ですが、考えてもらいたいと思います。

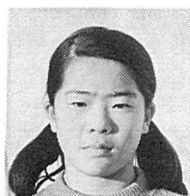
それから美しい町にするためには、もう一つ、ゴミの処理法です。みどりの箱を使って処理している所もありますが、まだポリバケツの所もあります。道ばたにポリバケツのおいてあるのは、くさいし見ている人も人々に不快感を与えるでしょう。もっとみどりの箱をふやしたほうがいいと思います。いくらきれいな公園があっても、ゴミバケツが並べてあるのでは、とてもではないけれど、美しい町とはいえないと思います。

次に安全な町にするということです。これは主に交通問題です。町の中を歩いていて目につくのは十字路の交通です。車が多いのにあまり歩道橋がありません。こんな所に歩道橋があったらなあーと思うこともあります。でもその反面、歩道橋のある場所は場所、あまり歩道橋を利用してはいけません。信号が変わって横断歩道を渡る方が、わざわざ歩道橋を降りるのより楽だということはおわかりますが、せっかくならものを利用しないのは、ムダです。危険でもあります。おまわりさんがいなければ歩道橋を渡らない、などというのではなく、おまわりさんがいてもいなくても、自分の命を守るためにすすんで歩道橋を渡るべきです。

これらのことのほかに、たくさん
の事があるでしょうが、わたしの
意見としては、最低限度のことを
いったつもりなのです。

市の中心に

大きな公園



平山弘子さん
大沢北小6年

わたしたちの学校は、開校して
から、まだ一年もたつてはいませ
んが、もう百二十人も転入生が来
ました。この事だけを見ても、越
谷市の人口の急げきなふえ方がわ
かると思います。

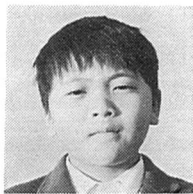
しかし、私の理想とする越谷市
は、自然に満ち、緑を豊富にもつ
たまちであり、シラコバトが安心
して住めるところです。それなの
に人口が急激にふえ、交通事故の
問題、道路の問題、下水の問題、
どれをとっても、今後、越谷市が
とり組む問題が多くあるように思
います。

この越谷市をどのように良くし
ていけばよいでしょうか。わたし
の考えはこうです。はば三十メー
トル位の道路が市の中央から八方
へびていきます。歩道はもちろん
一キロメートルごとに歩道橋と電
話がとりつけてあります。車道と
歩道の間には、がんじょうなガー
ドレールがとりつけられ、この八
方のびた道路をくもの巣のよう

にとりまき、はば十メートル位の
道路が円形にいくつもありま
す。外側の円になるほど、道の両側は
住宅です。そして内側の円になる
ほど、商店や会社が両側に並びま
す。一番中心の円の中は、大きな
公園です。その円をつくらせて
道路は、はばも三十メートル位あ
り、両側には、市役所、警察署、
消防署、病院、郵便局、その他大
切な役所や会社が並んでいます。
学校は、外側の円に近いあたり
に、平均して分散されてあります
鉄道の駅もやはり外側の近くを、
円形をとりまくようにつくられま
す。外側の円から、かなりはなれ
た所に、工場を集めて、工場地帯
をつくります。工場地帯と円形の
中とは、専用の鉄道と道路、しょ
つ中通う電車とバスで結ばれてい
ます。

このまちには、自まんできるも
のがたくさんありますが、その中
で一番のものは公園でしょう。川
池、森林、草原には鳥や虫や魚な
どがたくさんいて、自然のまま
です。そして子供達はかけまわ
たり、魚をとったりして遊ぶので
す。こんなまちができたなら何とす
ばらしいことでしょう。

道路が 発達したまち



島村玲郎さん
大袋小6年

多くの住んでいる越谷は人口十
五万を越す大きな市です。それに
都心に近いので人工の災害もふえ
てきています。

まず道路の問題から考えてみた
いと思います。それは、大きな道
路をまちの中心から遠くへ、その
道路からは、少し小さい道路で駅
や役所などのまちの中心へ結ぶ。
またまちの中心からは、オースト
リアのキャンペラやフランスの
パリーのよう放射状あるいは環
状の道路をつくり、市内のすみず
みまで連絡させれば、道路交通は
大変便利になるのではないかと思
います。

公害問題は現在、それほどでも
ありません。それは、東京へ通勤
する人達の住宅地として発展して
きており、工場が少ないせいだと
思います。

しかし、産業も発達させなければ
なりません。この場合、工場や
住宅地、商業地、農村地区などの
区分けをはっきりして、将来公害
問題が起きないように考えなければ
ならないと思います。

これからもまだまだ市の人口は
ふえていくことと思います。その
場合ただどこにでも家をつくるの
ではなく、住宅に適した所だけに
家を建て、森や林のいっぱいある
緑の中に住んだほうがよいと思
います。植物は、わたし達に酸素を
供給してくれ、鳥や虫は、ぼくら
ちに楽しい一時をすごさせてくれ

ます。自然を大切にしてい、いろい
ろな生物が栄えるようにしたいと
思います。

また現在、まちの中は建物がい
っぱいあって、庭のない家もあり
ます。道路もせまく、交通に不便
で、歩くのにも危険な所があちこ
ちにあります。そのためには、建
物の近代化、高層化等をすればよ
いと思います。ぼく達が学校へ行
く道にもあいている田や畑がまだ
たくさんあります。そういう所を
ぼくたちの遊び場や野球場にして
もらえたら、道路や、せまい空地
で遊び、ガラスをこわしたり、事
故を起こしたりしないのではない
かと思ひます。

このようにして、市をどんどん
発展させ、住みよい越谷をつくれ
たらと思ひます。

まず駅前 の整理から



長瀬浩子さん
桜井小6年

私は越谷をこんな町にしたいと
思ひます。まず第一に駅前をもう
少し整理した町にしたいと思ひま
す。いままでのところ、駅から一
歩出れば、タクシーやバスで駅前
は、大混雑です。そのうえ、歩道
と車道の区別がなくてとてもこま
ります。いつ車がいってこると
らわからないので、私などはいつ

もビクビクです。

第二に、この区域に、もっと電
灯をつければよいんじゃないかと
思ひました。家から見てもそこら
は、真暗です。だから、会社のお
そい人や学校の少しおそい人は、
たいへんです。まして、このごろ
は、早く日がくれてしましますし
寒くなってきました。電灯をたくさ
んつければつけるほど、犯罪も少
なくなり、明るいので、交通事故
の防止にもなると思ひます。

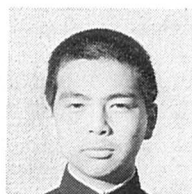
第三は、公園をたくさん設けて
ほしいということです。ここはま
だ田や畑があり、東京のように、
道路で遊ぶようなことは、ありま
せんが、春から秋にかけて、田の
方は米作り、畑はだいたい一年中
農作物を作っています。となると
やはり公園がいります。庭の広い
家はよいのですが、団地やアパー
トに住んでいる家の子どもたちは
遊ぶ所がありません。ですから公
園は子どもたちには、なくてはな
らないものです。おとなの人たち
だって、子どもと公園で遊ぶとい
うことが必要でしょう。だから、
もう少し多くしてもらいたいので
す。

第四に、どぶ川を少なくすれば
よいと思ひます。いまのところど
こへ行っても、どぶばかりです。
魚は住みにくくなり、田や畑へ流
す水としても使えません。そばを
歩いていても、とてもいやなお
いです。このままでは害虫など、
たくさん出ほうだいです。そのた
めには、川のそこにたまっている
ドロやゴミをとればよいと思ひま

す。そうしたら、害虫も出ないし
清潔で魚が住みよいきれいな川に
なると思ひます。

私が書いたのは、ほんの一部分
にすぎません。このほかに、まだ
やらなければならぬことが、た
くさんあります。その一つ一つを
私たちが考えて、もっともっと住
みよい町にしたいと思ひます。そ
して、いつもそのために、一人一
人が努力をしてよい町にしたいと
思ひます。

あたたかみと 明るさのある町



田中幸夫さん
東中2年

現在、ぼくたちの住んでいるま
ち、越谷市は、日一日と躍進し、
発展しつつある。人口は十五万人
をとっばし、ぼくの家まわりにも、
次々と新しい家が建ち、近代
都市への歩みをつけている。し
かし近代化への発展をつけてい
くなかで、現代また未来へのいく
つかの問題点もあると思う。その
第一に考えられることは、日本全
国で叫ばれている公害であり、交
通事故である。近所のお年寄りに
聞いてみると「昔はもっと川がす
んでいて、みんなこの川で泳いだ
ものだった。」という。また、一
日救急車の音を聞かない日はない
現状である。このまま十年、二十

感動の名画を再び

青少年名画劇場

今井正監督「米」

一月十四日(金)

午後七時から九時まで

市役所大会議室

主催市教育委員会

年たった越谷市を考えると、おそろしいような気がする。では、どうしたらこの二つの悪魔からのがれられるかを考えるのが、今のぼくたちの課題であり、義務だと思ふ。

さて、これからの越谷市、ぼくたちの手でつくりあげる越谷市の未来図を考えてみよう。

それは、田園都市越谷の良さとそして近代文化都市としての良さの両面を生かしたすばらしいまち越谷である。そのためにぼくは、越谷市をいくつかの地帯に区分けしたい。まず第一に緑が多くすんだ空ときれいな川、春になると小ブナやどじょうが、小川のせせらぎに泳いでいる。そんな所と一方は白い煙が立ち並んだ煙とつからもくもくと出る工業地帯、そしてそれを背景とする豊かな財政、もう一方は、駅を中心に銀行、百貨店、商店のならぶ商業地区を、そして最後に文化地帯、学校など。

つまり、越谷市を工業地帯、商業地帯、農業田園地帯とに分ける学校の校庭も広くし、のびのびと勉強できる環境に近づける。図書館も球技場も、公共施設も完備して、若者ののびのびと活気に満ちたまちにしてゆきたい。もちろん若者だけではない。老人も小さな子供も、大人たちも、みんな活気に満ちた、生きることの希望と幸福を感じるような、人間的なあたかかみと明るさのあふれたまちを築きあげたい。

この理想に近い越谷市になるよう、ぼくの持てる力と可能性を

来の越谷市のために生かしたいとぼくは思う。

住みたいと思ふ町に



根木島洋子 中央中学校2年

「越谷」と一口に言っても広いしかし、広いだけで多くの土地は市民のために有効に使われていない。そこでもし、私がこの広い越谷を自由につくりかえることができたらこんな町にしたい。

それは現在の越谷のよさを生かし、おちついた町づくりを計ることにある。私の言う「おちついた町」というのは、誰もが「越谷に住みたい」という町にすることである。その一つとして、農業用地と住宅地を交互に置くことである。一軒一軒が後ろに畑を持ち、なすやきゅうり、トマトなどの野菜を自家栽培するようにしたい。

第二は、越谷も近い将来には、公害に悩まされるときがくると思ふ。そのためにも、市民の憩いの場である緑の公園、グラウンドをふやす必要があるのです。私の理想は、元荒川の河原をひろげ、たくさん橋をかけ、一方を公園とし、もう一方をグラウンドとして、行き来が自由に行けるようにすることである。そうすれば自転車であつちの公園、こつちのグラウンド

と、走りまわらなくてもすむのです。

第三に考えなければならぬ問題は、交通事故、および道路の問題です。この越谷には、大きい国道が通っているためか、交通事故がとて多くなっています。交通事故を減らす意味でも、東京の銀座のような歩行者天国をつくりま

す。また道路の問題ですが、道のあちこちに、車が駐車しているのを見かけます。市民の道なのですからみんな有効に使おうべきなのです。そこで一つの対策として、家を二階にし、一階を駐車場にしてはどうでしょうか。

私は今日から、越谷の一人の市民として、大きな理想を持って、生きていかなければいけないと感じました。

越谷に緑を



山崎礼子さん 主婦40歳 登戸町

越谷に住むようになってから六年になります。その間に都市化という名のすさまじい力が、私たちの生活環境をどんどん変えてしましました。かつての越谷は、広々とひろがる田んぼの中に、屋敷林に囲まれた農家が点在し、用水

添え、私たちを楽しませてくれたものです。あの頃の澄んだ水、緑

はどこへ行ったのでしょうか。このまま市街化が進むと、豊かな緑は消え、殺ばつて無秩序な町になりかねません。市民の健康を守り、心に安らぎを与えるには、どうしても緑が必要で、失われつつある緑の、保護育成の対策を考えなければならぬ時期と思ふ。

花が咲き広々とした公園、思っただけでも楽しいことですが、この町でも、学校、道路等すぐに解決しなければならぬ問題に追われ、公園まで手がまわらないのが現状です。

越谷も同じことですが、このまま放置すれば自然はどんどん破壊され、用地はなくなり、ますます困難な問題ができて、多くの費用と努力が必要となりますので今のうちにできることから手をつけるべきだと思います。

そこで、町に緑を与えるような大きな木は、簡単に植えられるものでもなく、数十年たたなければ得られない貴重なものですから一本でも多く保存し、屋敷林、社寺境内等の老樹は保存のため助成を考えてみてはどうでしょうか。

これからは土地の細分化は進み市街化していくでしょう。それもまたやむを得ませんが、市民の一人一人も、どんな小さな庭でも必ず木を植え、現存する木はたいせつに残すようにしていただきたいと思ふ。

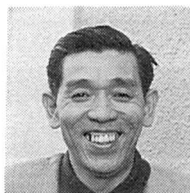
個人では大きな木を植えられるような庭を作ることにはなかなかできませんので、学校、公民館等、

公共の建物、工場会社等の敷地は必ず緑化するように義務づけるべきです。また、自然が残され、景観の優れている所は、所有者の協力を求めて、風致地区とか、近郊緑地保全区域に指定して保存を計るべきだと思います。

さらに、池や湿地など、あまり利用されていない土地は買収しておき、将来はこどもの遊び場や、公園を作つて、無味乾燥化する市民生活に、緑と太陽をとり戻し、市民を災害や公害から守る場としてはいかかでしょうか。

誰でも自然を守り、公園を作ることには賛成されるのですが、なかなか実行しないものです。市民と市が協力して行なえば、必ず実現できることですし、ぜひ実行していただきたいものと思います。

交通公害の悩みを解決



城処一雄さん 製菓製パン業47歳 大沢1丁目

首都圏三十キロ内に位置する我が越谷市は、地下鉄日比谷線と東武線の相互乗り入れで、都心への通勤時間が一時間以内で結べるといふ交通の便に恵まれ、東京のベッドタウンとして、全国まれに見る人口急増地帯である。また東京から、たくさん工場が相次いで進出するとともに、土地の造成に車

が大はばに増加し、都市化の波をもとに被り、緑の田園は日増しに失われていく。この現状の中で私たちが市民にとって大気の汚染、水質汚濁、騒音、悪臭と公害は日増しに加わり、市民にとっては重大なことに直面している。この公害の一つとして交通公害がある。毎日車のために生命の危険を感じ、道路の道は狭いのに大型の車が長蛇の列をなし、鼻もおかしくなるような排気ガスが夜中まで続き、山のように土砂を満載したダンプカーが地震のような地響を立てながら走る。このような悩みから三十万都市をめざす大越谷市の都市造りにはぜひとも交通問題の解決をするために、まず道路の整備から始めたい。まず自動車専用高速道の建設である。この高速道路はすべて高架とし、交差点は立体とし、歩行者は安心して下を通れるようにする。この高速道は、少なくとも越谷市の東側に四号バイパスを一本と、東西を結ぶ浦和田野線の早期建設と南部側にこれらを結ぶ線の最低三本が必要である。次に、今後開設されるであろう流通センターの建設が終わったあかつきには、相当量の車の増加が見込まれるため、市内と他地区を結ぶ道路の建設と、地区内を結ぶ道路の整備建設を進めるとともに道路にはすべて歩道を設けるとともに、無料駐車場を設置、整備拡大する。次に、毎日満員電車でお困りの通勤される方には、東武線の高架

による複々線化と、地下鉄を誘致して、ラッシュ時の混雑緩和を計る。なお、現北越谷駅およびせんげん台の駅のように、全部の駅を橋上駅とし、東西の乗降口を設け駅前広場の確保と整備された道路をとりつきたい。これらの実施によって、いくらでも交通戦争の緩和と、市民生活の安全と健康に役立てば幸いだと思う。

次に、私たち商業者の立場として、急増する人口と生活水準の向上によって消費需要がますます増大し、このためにも消費者が安心して買物ができる歩道の設備と、豊富な商品と、レクリエーションを楽しむながら、安心して選べる

文化都市

「越谷」に



奈良寿子さん
主婦 35歳
大字袋山

五年前この越谷へ住むようになった時の第一印象は、だだっ広い野原だなあというものだった。しかし、その野原も半年、一年とたつ間に、あちこち住宅地となつていき、人口もいつか十五万を超えてしまった。

新しくこの越谷の住民となった十万余の人々の大半は、ベッドタウンの条件を満たすものとして、この街へ住みついた人たちであ

店づくりをし、そのためにも個々の商店の魅力もさることながら、集団化、専門店化、または共同化とし、近代的な商店街を形成することが課題である。

最後に、今後社会はますます型にはめられ、人々は自然を望むものと思われる。そのためにも、失われていく緑の確保と、釣の名所として名高い越谷水郷を保護し元荒川沿線には桜の並木と遊歩道とサイクリング道の建設をし、水と緑と太陽に恵まれた近代的な住宅都市造りと、自然の姿を作りあげるとともに、健全な体力と健全な心の育成、そして健全な社会を造り上げたい。

でも、家が定まって腰を落着けてみると、新しい環境にいろいろと不満が出てくるものだ。いわゆる「買物が不便だ」、「病院が遠い」等々。

四十六年度の市政世論調査を見ても、越谷を住みよい町と思う人が五〇パーセントほどあり、その人たちはいつでも住もうと考えているが、そのためにはいろいろの施設が欲しいことを願っている。

ところで、どのような施設を市に求めるかという前に、ベッドタウンとしてここまで大きくなってしまった市を、単に住みよい街というだけでなく、特色ある街にしたいものだと考える。工業都市とか、商業都市にはあたらない街であれば、きざなようだが「文化都市」と銘打つほかないようだ。

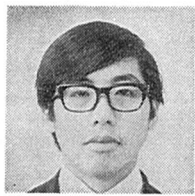
さて、文化都市にふさわしい施設は、と見まわした時、何が挙げられるだろうか。辛くも図書館を挙げるのみのわびしさだ。国体の名残りの体育館が、市民を集める場に使われているが、音楽会など行なえるものではなく、市民会館は一つほしいものだ。また、十五万の文化都市が、公立病院も持たないのでは、文化生活を営むとは

言えないので、これを望むのは無論のことだ。

越谷と一口に言っても、その広さは驚くほどで、まだまだ水と緑の美しさがあちこちに見られるこれを守ることも文化都市の義務であろう。市役所や図書館を訪れた時、何か心なごむ気持がするのは葛西用水の流れと、緑を吹く風のためであろう。平和橋から久伊豆神社へかけての「越谷水郷」の美しさをそのまま組み入れた市のオフィス街を作り上げて、文化都市のシンボルとしてほしいものだから、市民の一人として協力を惜しみはしない。

大はばな

区画整理から



松沢 弘さん
学生 18歳
大字花田

私は、この越谷が人々で溢れるような町にしたいとは思いません。

なぜならば、東京のように荒涼とした灰色の街、公害の街にしたいからです。

越谷では、現状は難しい所までできていると思います。それというのには……市における人口の密度は、三時間に家が軒建てしてしまうという程の勢いを示しています。それにつれて、河川は、日ごとに汚染され、悪臭を及ぼすという事態が発生して、市当局ではあらゆる手段を駆使して、対処しているようですが、まだ完全ではありません。また居住難のために埋め立てが、次々と行なわれれば自然は壊滅してしまい、大気汚染は、なお一層進んでしまうことは明白です。

ですから、まず大幅な区画整理を行ない、市営の団地を建設し、各地域に「学校」「公園」を設置することに、便利であるし、また合理的にもなります。そして前にあげた問題を少しは解決できると思います。また、流通センターを中心とした「商店街」「工場」により、経済を維持できるような町にしたい。

もちろん、自然の破壊は、防がなければならぬし、防ぐことにより、同時に大気汚染をも防ぐことにもなります。

このように、一定の区画内に設定すると、敷地のスペースも、以前よりは、ズツと縮小できるし、緑化も進むといった一石二鳥の考えは、都心部でもかなり発展しています。また隣人との交際もあまり見受けられないという問題も解

消されるわけです。

そして一定区域内に住む住民の自治組織は確立されて行き、協力性も高まり、快活な生活を営むことができそうです。

自治力の向上を計るには、必ず市民は市長に協力し、市長は市民に応えるといった、協力の全体性呼応性がいつまでできているという町にしたい。

独特の味わい

のある町に



石井茂子さん
社員 20歳
大字増林

最近の越谷は、近代化への発展がめざましい。そして、人口の増加などは、驚くばかりである。町のこころやそこ、田んぼを埋め立てたあちこちやこちへと、近代建築の住宅や、素敵なショップが建ち並ぶ。

そんな越谷を象徴するかのようにならぬ立派な庁舎、市役所などは、元荒川を小脇にかかえるかのごとく、ドッシリと腰を据えている。

世の中の流れが、数年のうちに越谷に、いわゆる「現代的」という風を運んできて、古いものはひとつひとつ吹き飛ばされつつある。東京のベッドタウン化し、草加も越谷も、東京とさして変わりがなくなってきたそんな時、町だから。

何か独特の味わいでもいおうか越谷らしさというものがほしくなる。

だけれど何を自慢にかは知らないが、「江戸ッ子だつてね」といわれると「そうよ、江戸ッ子よ」と胸をポンと叩いていっているが、いい意味で自信を持って「そうよ越谷よ」といえるそんな町になつていったらと思う。

言葉の使い方は正しくないかも知れないが、「みちのく越谷」そんな雰囲気、いつになつてもどこかでふと味わえる町であつたら……。

いつか来る日に、「東京から田植えを子供に見せに来た。越谷まで来ないとも見られないから」などということであつたら、私は本當にうれしいのだが。近代的になつて、便利になつて、工場がたくさん増えて、公害と騒音もよくなるより、田舎の町であつた方が私は……と思いつつ、その近代性に、便利さに、大いに助けられているのだが。

こんなたわいないことを心の底で思うことは簡単だけれど、これから先、越谷がどうなっていくか私が、皆がそれぞれに大なり小なりの力で見守っていかなければならぬと思う。私にとって、それが大人になることかとも思う。

越谷地図を広げて見ると、ちっぽけな町だけれど、海もない町だけれど、たいして有名な町じゃないけれど、ひときわ光って見える。なぜって私の生まれ育つた町だから。

正義と愛が確立 されたまちに



貴田陽一さん
損害保険代理業
37歳 越ヶ谷宮前

おもはゆい。このテーマをこなすだけの資質を持ちあわせていないからである。しかし私は、故郷「こしがや」を愛する熱情においては、人後におちないつもりである。私をこのテーマに敢えて立ちむかわせるとすれば、その熱情の外には何も無い。

「少し歩いてくれないか」私は下駄をつっかけ外に出た。「寒いな」「ウン」そのほかの言葉はなかった。彼は心に深手を負っていた。歩くことが慰めであった。小一時間して、とある野川の橋に出た。私達はこの道が好きだった。それまで下ばかり見ていた私達に、自然は上を向くことをうながした。そこには、満天の星が牙え、天の川がその雄大なつばさを広げていた。

これは私の青年の日の思い出である。

今、その散歩道はけずり取られそして天の川も私のふるさとの空にはない。そう言えば、そのほかにも私達の視界から消えていったものはまだまだ多い。

一九七二年、新しい年の門出に失われたものに心をうばわれるのみではなまぬまい。よわい十三年の「こしがや」は、まさに青年前期にさしかかった。青年都市として、不安定な要素を宿しながらも未来への成長が期待される年齢に達した。

「越谷をこんなまちに」このテーマを与えられて、私はいささか

あ越谷に住んで良かった」と言うまちであろう。いずれもむずかしい課題である。しかし青年都市の希望とたくましさをもって、この二つをしかりと据えたいと思う。

まず

自然の保護を



荻原英雄さん
教員 34歳
越ヶ谷5丁目

「安心して、住みよいまちに」ということであろう。これは大変な問題である。住んでいる人たちの、幼児から老人まで年齢的配慮も考えて、だれもが住みよいと思われるには、たいへんなことであるからである。共通して考えられることは、まず自然の保護である。「水が豊富で」「太陽が輝き」「みどりを絶やさぬ」「越谷にと願うのである。今までどおり自然を破壊することのない基本姿勢をかまえていただきたいと思うのである。現に、住宅地、工場地等の区域を指定していることを強力に推し進めてほしいと思う。

次に、福祉的施策である。わたしたち越谷の市民が、人間らしいつきあいの中で生きたいというところからある者が、ちからのない者に助けてあげられるような越谷市民であってほしいと思う。特に、幼児の保護、老人の

問題、母子家庭、はたらけない人々への援助、病院の問題等である。三番目は、市政への市民参加である。市民のアイデアを活用して、予算化し、大いに実現させるよう努力してほしいことである。市民の要求を整理してみることも必要であろう。職業柄わたしは、中央児童公園を作り、各地区を結ぶよう放射状にサイクリング道路を建設し、その道を行けば児童公園に着くという専用道路をつくり、動物の村、科学館、博物館、各種運動場、青少年施設、音楽室などを中央に集めたものを提案したいのである。

めに、車道、自転車道、歩道を上線につくり、それらのしきりを排気ガスに強い木でしきるようにしなければならぬだろう。他に、各課の横の連絡調整、官舎をつくり市の部課長さんには越谷市民として住んでいただき、じっくり越谷市をみつめて貰う。越谷市を中心にもわりの市町村と連携協力して「住みよいまち」にむかって前進していただきたいものである。また、教育文化への投資は次代をなう人間をつくることにあるので大切な貯蓄である。特に教育センターをつくる。

四番目は「実現する場合の見通しをもってほしい」ということである。まちのすみずみまで舗装されて便利になったが、以後、ガス、水道工事などでほりかえしてしまうことや、天からいただいた大切な雨水が、下水といっしょに流れてしまうことである。もったいない話である。一方が便利になれば、一方には害がでるといふことである。つまり害は我々が作っているようなものであろう。一つのことを行なうには、各種専門家や住民の意見、予算、さらに「見通し」というものを考えて行なわなければならない。住みよいまちに発展しないのではないだろうかと思えるのである。ゴミ焼却による熱利用、河川敷の利用など、更に利用することまでの見通しがほしいのである。越谷市は、道路を通過するまちなので、その害をふせぐた

現在、テレビ、ラジオ、新聞などのマスコミが、公害、公害とさわいでいる。しかしそれらは一方向に改善される様子もない。このような環境の中で、我々一人一人が、公害という言葉にあまりにも慢性化してしまったのかも知れない。我々の身近にある工場からの悪臭、騒音、汚水等、数えあげたらきりが無いほどである。現在の越谷市も急激な人口や産業の増加にともない、家屋や工場が無秩序に建設され、それらの家屋や工場による公害が我々の農業

計画的な

土地利用を



中島清さん
農業 20歳
大字小曾川

経営をさまたげている。これらのことを防止するには、用排水の整備などが必要である。これらのものが、整備されない所へ家屋や工場が設置されてしまう。このようないことが防止できないことはないと思う。

そこで私は、計画的な土地利用をしていくことが重要な問題であると思う。新都市計画法が施行され、市街化区域と調整区域に線引きされたため、計画的な土地利用がいつそできやすくなったのではないかと思う。

住宅地には、住宅を建設し、住宅地は産業公害、交通公害などから、遮断され、安心して生活できるような環境に、工場は住宅地と離れ集団化し、騒音やばい煙などの心配のない工業地帯にし、我々が何の心配もなく農業生産に没頭し、米、野菜、花卉などができるような、計画的土地利用が望まれていることだと思ふ。

このようなことは、どの計画にもあてはまり、例えば、舗装をすればかりの道路をこわして、水道管、ガス管、電話線工事かわからないが、このような光景は、めずらしいことではないようだ。我々が、やっと舗装になって喜んでいながら、このようなことが起きるといふことは、無計画のもとに工事をしているとしか思われぬ。このようなことは、市役所の横の連絡がとれていないことではなからうか。今後このようなことをなくし、計画的土地利用による近代的住宅都市を作り上げたい。

広報こしがや 第四一五号



燃えないごみの収集日

1月16日から31日まで

と	き	と	こ	ろ
1月17日	月	袋山, 蒲生寿町, 越ヶ谷4, 5丁目		
18日	火	弥生町		
19日	水	蒲生苗町, 越ヶ谷本町		
20日	木	大林, 大房, 沼田, 大房チサン団地, 興人団地, 海道西, 桃山, 梅ヶ丘中央, うめが丘, 藤ヶ丘, 登戸町, 柳町, 御殿町, 中町		
21日	金	東柳田, 元柳田		
22日	土	北越谷1, 2丁目, 蒲生旭町, 赤山町1, 2丁目		
24日	月	大沢1, 2丁目		
25日	火	大沢3丁目, 蒲生愛宕町, 赤山町3, 4丁目		
26日	水	大沢4~6区, 登戸新田, 瓦首根, 宮前, 東宮前, 宮浦, 雇用促進事業団		
27日	木	東小方, 南越谷1, 2丁目, 相模町1~7丁目, 西方		
28日	金	南越谷3丁目, 大成町1~8丁目		
29日	土	増林, 花田, 瓦首根1, 3丁目, 中島		
31日	月	東町1~7丁目, 瓦首根2丁目, 北越谷3~5丁目		

保育所(園)入所受け付け



川柳保育所は4月開所予定です

保育課では、ことし四月から市内の各保育所(園)へ入所する児童の申し込み受け付けをします。受け付けは一月十日から二十五日までですが、入所申請書は各保育所(園)および保育課にあります。受け付け年齢資格は満三歳から六歳までで、乳児保育所と蒲生保育所については生後三か月から三歳までの幼児です。

入所できる子どもは

○母親が昼間家庭の外で仕事をすることによって、子どもの面倒がみられない場合

保育所(園)入所受け付け日割り

保育所(園)名	入所できる児童数	受け付け日	受け付け場所
蒲生保育所	3歳未満 15人	1月10日	蒲生保育所
	3歳以上 20人		
大袋保育所	40人	1月10日	大袋保育所
大相模保育所	19人	1月11日	大相模保育所
桜井保育所	29人	1月11日	桜井保育所
増林保育所	27人	1月12日	増林保育所
大沢第一保育所	40人	1月12日	大沢第一保育所
中央保育所	33人	1月13日	中央保育所
深田保育所	9人	1月13日	深田保育所
七左保育園	20人	1月14日	七左保育園
越ヶ谷保育園	16人	1月14日	市役所保育課
あお保育園	53人	1月19日	大沢保育園
川柳保育所	29人	1月19日	市役所保育課
乳児保育所	100人	1月20日	市役所保育課
	3歳未満 16人	1月22日	市役所保育課

受付時間…午前10時から午後3時まで

※当日都合の悪い方は1月10日から1月25日まで市役所保育課で受け付けます。ただし土曜日は正午まで、日曜、祭日は除きます。

○母親が子供とはなれ、家事以外の仕事のため、子どもの面倒がみられない場合(ただし父親がその仕事に従事し、かつそのための使用人がいる家庭は除かれます)

○母親がなくなった、ゆくえ不明等の理由により母親がいない場合

○母親が出産前後で、心身に障害があったりするので、子どもの面倒がみられない場合(ただし出産、病気が回復の場合は退所していただきます)

○家庭に長期にわたる疾病または心身障害者の看護のため、子どもの面倒がみられない場合

○火災などのため、その復旧の間子どもの面倒がみられない場合

○給与所得者は全家族の昭和四十六年分給与所得の源泉徴収票(各一通づつ)

○農業、営業などについては所得税の納付額を確認できる書類(納税証明書の写し、または領収書)

○母親および祖父、祖母が居宅外労働または内職に従事している場合はその職主の証明(各一通づつ証明書については指定の用紙があります)

○母親および祖父、祖母等が病気の場合は医師の診断書(各一通づつ)

なお添付書類の不備の場合は受け付けませんのでご了承ください

申し込みに必要なもの

一月の施設めぐり



市役所では次の要領で施設めぐりを行ないます。まだ施設を見学したくない方はふるってお申し込みください。

とき 1月28日(金) 午前9時

市役所5階第一会議室集合

見学施設 学校給食センター、東部清掃組合、県立越谷青年の家、老人ホーム順正苑、北部浄水場、消防署谷中分署

申込方法 1月14日までに往復ハガキで住所、氏名、年齢、志賀直哉

城の崎にてその他短編

テキストは図書館にあります。

図書館だより

第31回市民読書会

職業、電話番号を記入して市役所企画部広報課(越谷市越ヶ谷四二二)へお申し込みください。

定員 20人

なお、団体での施設めぐりも受け付けています。くわしいことは企画部広報課までご連絡ください

電話 64-2111 内線三四五

成人式に参加しましょう

おとなになったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます成人式は1月15日市立体育館で行なわれます。案内状の有無にかかわらず該当する方は直接、式場へお越しください。

とき 1月15日 9時半受け付け

ところ 市立第1体育館

該当者 昭和26年4月2日から昭和27年4月1日までに生まれた方

内容 式典とアトラクション

主催 越谷市、越谷市教育委員会、越谷市青年団

後援 市内各公民館

なお、当日は平服でお越しください。

電話 J489-64-2111

昭和三十三年八月五日第三種郵便物認可 発行・埼玉県越谷市役所 編集・企画部広報課 昭和四十七年一月一日発行(毎月二回1日、15日発行) 越谷市越ヶ谷四丁目二番一号 郵便番号三四三三